

◎特別支援学校（知的障害）

児童が見通しをもって主体的に活動するためのＩＣＴ機器の活用
～生活単元学習における行事等の事前学習の実践～

1 教科等名及び学部・学年

- (1) 教科等名 生活単元学習
(2) 学部・学年 小学部

2 単元のねらい及び計画

- (1) 単元名「6ねんせいとあそぼう～なかよしぱーく～」
(2) 単元のねらい
- ・好きなコーナーで自ら遊ぼうとする。
 - ・誰に招待状を書くかを選ぶ。
 - ・6年生と一緒に「なかよしぱーく」で遊ぶことがわかる。

(3) 単元計画

次 (配時)	主な学習活動	活用するＩＣＴ等支援機器名 (アプリ名)等
一 (1)	・なかよしぱーくで遊ぶ。	iPad (アプリ「カメラ」)
二 (1)	・6年生を送る会について知る。 ・6年生の紹介VTRを観る。 ・6年生となかよしぱーくで遊ぶことを知る。	iPad (アプリ「Key note」) テレビ
三 (1)	・誰に招待状を書くかを選ぶ。 ・6年生への招待状を書く。	
四 (2)	・6年生と一緒になかよしぱーくで遊ぶ。	

3 授業での活用事例

- (1) 活用のねらい
- ・6年生と一緒になかよしぱーくで遊ぶことがわかる。
- (2) 児童の実態
- ・小学部1年生16名（男子11名、女子5名）
 - ・教師や友達と一緒に遊ぶことを好む児童や一人で遊ぶことを好む児童等、興味・関心はさまざまである。
 - ・ほとんどの児童は自分のしたいことを音声や身振り、指差し等で教師に伝えることができる。全員が写真や映像に興味をもっており、注目することができる。

(3) ICT等支援機器の活用方法・工夫点

- ・「カメラ」で、事前に1年生が遊んでいる様子や6年生の自己紹介の動画を撮り、「Key note」でプレゼンテーションを作成し、テレビに映して提示した。

＜写真1＞プレゼンテーションを観ている様子



＜写真2＞「Key note」で作成したプレゼンテーション



(4) 活用の効果及び課題

- ・ICT機器を使って、事前学習を行うことで、より児童の興味・関心を引くことができ、児童全員がテレビの映像に注目し、授業に参加することができた。
- ・6年生の紹介を動画で撮り、見せることで、より注目を集め、積極的に名前を読む児童がいた。
- ・iPad一つで、撮影からプレゼンテーション作成まで、全て行うことができ、手軽に教材づくりをすることができた。
- ・一斉授業だけでなく、空き時間や招待状作りの時など、いつでもプレゼンテーションを見直すことができ、6年生と一緒に遊ぶことを期待する姿が見られた。

4 改善点

(1) 改善したこと

- ・パワーポイントでプレゼンテーションを作成する場合には、デジタルカメラで写真や動画を撮ってパソコンに取り込む作業が必要だが、iPadの「Key note」は、「カメラ」で撮ったものをアルバムからそのまま貼りつけることや動画もすぐに貼りつけることができるため、「Key note」を活用したこと。

(2) 改善後の効果

- ・「カメラ」の動画を撮りながら、静止画を撮る機能も活用し、より具体的でわかりやすいプレゼンテーションができた。パワーポイントよりも手軽に作成でき、多機能な「カメラ」を利用できるという違いを改めて感じた。
- ・学年の他の教師にも、「Key note」の使い方やテレビと接続するケーブルを説明することで、ICT機器の教育的効果を共通理解することができた。
- ・今後、6年生に招待状を渡す場面や一緒に遊ぶ場面などを撮影し、活動の振り返りに活用すれば、さらに学びを深めることが期待できる。

5 成果と今後の課題

I C T機器を使って、事前学習を行うことで、より児童の興味・関心を引くことができた。また、I C T機器で作成したプレゼンをプリントアウトして教室に掲示しておくことで、それを見て教師と会話する児童もいた。行事や授業への見通しと期待感をもっている様子がうかがえた。